

### 3 図書館協議会による図書館運営全体に対する評価(委員長とりまとめ)

協議会委員は一致して、県立図書館が日常生活に役立つ図書館という新たな方向に挑戦し、みごとに成果をあげていることを高く評価し、館長をはじめとする図書館職員の方々の努力に敬意を表す。図書館の活性化は読書の推進と教育・文化の活性化につながるものとして重要である。さらなる利用増に向けてさらに取り組みを進めていただきたい。

図書館運営全般に対し、委員から出された意見・要望には次のようなものがある。

#### [図書館サービスについて]

- ・ 電子図書館サービスの取り組みについては様々な機会に情報を提供していただきたい。
- ・ 障害者に対する利用の利便性の向上を図っていただきたい。
- ・ レファレンスサービスが昨年度と同様低評価だが、原因の究明や対策の検討は行っているのだろうか。
- ・ 県立図書館は清潔で落ち着いた雰囲気があってよい。
- ・ こども図書室に置かれる児童書や、くらしガーデンに置かれる実用書等は新しい利用者を拡大したが、図書館本来の専門書等の充実も欠かせない。経費削減のなか、どのような割合で本を購入していくのか、議論が必要である。
- ・ 新しい取り組みと同様、公立図書館への支援も引き続きお願いしたい。

#### [運営について]

- ・ 職員の方々の対応もてきぱきして気持ちよいが、堅い雰囲気がやや感じられるので、少し肩の力を抜いて笑顔でもって応対してくださると評価が向上すると思う。
- ・ 落ち着いた雰囲気を維持しながらも、新しい企画に取り組んで、県民の教養の向上に努めていただきたいが、職員の負担増にならないように配慮願いたい。楽しんで企画してもらいたい。
- ・ 館長のリーダーシップはもとより、職員一人一人が図書館の運営に自ら関わっていかうとする積極的な姿勢をもっていると感じられた。
- ・ 常に不特定多数の人が利用する施設であり、災害時の避難経路のわかりやすい表示と職員の防火防災意識の一層の向上を望む。
- ・ 県立単独での事業が目立つ。読書推進活動などは、県立としての役割から言っても、単独で取り組むよりは、関連行政部門、市町村立図書館、関係団体などと連携して行うべきものであろう。